

NPO法人社会還元センターグループわ会報

情報ギャラリー

第31号

情報ギャラリー第31号

発行日 2005年7月28日

編集 グループわ広報部

発行者 納利春

発行元 NPO法人社会還元センターグループわ

TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830

Eメール group_wa@wa-net.jp

ホームページ http://www.wa-net.jp

小学生に勉強を教えて見ませんか

子どもたちの学習支援活動がスタート

理事 中沢 保夫

お父さん、お母さんに代わって小学生たちが苦手とする算数などを教えてみませんか
 NPO法人グループわが本年度活動方針で、初めての試みとして取り上げた「子どもたちの学習支援活動」が大きな反響を起こそうとしています。神戸市小学校々長会でも話題となり、すでに12校から申し込みがあり、今秋2学期から本格的な支援活動がスタートします。

活動をはじめる動機

わが国の未来を託す子どもたちの教育について、最近よく論議されるようになりました。そんな中で昨年度、神戸市シルバーカレッジでは学生による地域活動の一環として、西区の檀谷小学校で算数などの授業補助をはじめたのです。おじいちゃん、おばあちゃん先生の教えに、子どもたちも苦手な算数に興味を持ちはじめ、メキメキと計算力も付いてきました。

グループわの取り組み

このことがシルバーカレッジやグループわで話題となり、学生たちに呼びかけて、全市的な運動に広めようということになったのです。5月17日に開かれたグループわの総会で、本年度活動方針のひとつとして「子どもたちの学習支援活動」を発表しました。その後、シルバーカレッジの在校生に対するグループわの説明会でも、この支援活動への参加協力を呼びかけました。

市教委、校長会の反応

6月3日には神戸市教育委員会に趣旨説明をするるとともに、協力を要請しました。市当局として本年度は予算的な応援は出来ませんが、大変よいことなので大いに期待しているとの回答でした。この日開かれた市内170小学校、養護学校4校の代表校長会や、6月6日の各区校長会の議題として取り上げられ、学習支援を受ける希望校を募ることを決めました。

その後、わずか1ヶ月足らずの間に派遣要請のあった学校は、灘区六甲小学校など12校にのぼっています。

各小学校現場の希望

各校の希望を聞いてみると、対象学年は1年から6年生までの全学年で、1校当たりの希望者は2~10名、補習教科は算数、国語など。学習指導だけでなく、校内での生活補助指導の要請もあります。放課後のクラブ活動の指導もあり、今後こうした要請校が増えることが予想されま



檀谷小学校で放課後、勉強を教える会員たち

す。グループわ事務局で希望校を訪問した結果、先生方は学習支援に大きな関心と期待をよせていて、出来れば継続して指導願いたいという声が出ています。

支援活動の指針

- 支援活動の内容として学習の指導補助
- ・算数の少人数の指導
 - ・総合的な学習の活動補助
 - ・教科や総合的な学習のグスタティーチャー
 - ・特別支援教育の補助
 - ・課外学習指導補助
 - ・クラブ活動の指導補助
 - ・図書館ボランティア(お話の会)
 - ・ふれあい行事等への参画などです。

一方、グループわ事務局に申し込みのあった会員(シルバーカレッジ在校生を含む)は現在20名です。5月の総会以後、学習支援のボランティアを募集していますが、こんご希望校が増えることが予想されるので、希望者はどしどし申し出てほしい。教員資格の有無は問いません、同封の「子どもたちの学習支援活動」登録票に必要事項を書いてグループわ事務局へ郵送、またはFAXして下さい。

なお8月8日午前10時からKSC学習室1,2で「登録者の集い」を開催します。わ担当者より現況報告、意見交換、活動の方向付け等を話し合います。

新理事長に納利春さんを選出

NPO グループわ 第2 回定期総会開く



新年度事業計画の説明を熱心に聞き入る総会出席者たち

特定非営利活動法人(NPO)社会還元センターグループわの第2 回定期総会は、平成17年5月17日(火)午前10時からシルバークレッジホールで開かれた。

門脇淳子さん(福2)の司会ではじめられ、まず赤司松美理事長の開会挨拶のあと、来賓の紹介があり、神戸市民福祉振興協会専務理事中本正信氏、同市みよりの公社理事渡辺由和氏、同市社会福祉協議会福祉活動部長小池裕氏、中央、兵庫、須磨の各区ボランティアセンター所長の臨席があった。

来賓を代表して中本専務理事から「NPO法人としてのグループわに対する市民の期待は大きい」との挨拶があった。

議長に牛尾祐介氏(福3)を、書記に谷田部宏氏(生6)を選び、牛尾議長より当日会員総数909名、総会出席者211名、委任状386名で、会員数の過半数を得て、総会は成立している旨の報告があった。

議事に入り、赤司理事長から1号議案の平成16年度事業報告、黒田宏副理事長(国6)から2号議案の同年度決算報告と、中島洋吉監査役(生4)から監査報告が行われた。1、2号議案についての一括質疑応答があり、採決の結果異議なく承認された。

牛尾議長から3号議案の平成17年度役員選出について提案され、新理事長に納利春さんはじめ下記の新役員が満場の拍手により承認された。

納新理事長が役員を代表して「昨年、新スタートしたNPO法人グループわをさらに発展させることが私たちに課せられた使命である」との力強い決意表明があった。

引きつづいて4号議案：平成17年度事業計画、5号議案：同年度会計収支報告について、納新理事長、井上新副理事長から説明がなされた。

特に事業計画では本年度から新しく「こども家庭センターの支援事業」の業務

委託をはじめ、市内小学校低学年を対象とした学習支援活動を計画するなど新規事業に積極的に取り組む。ボランティア活動のレベルアップを図るため講習会、見学会や「上手な話し方、聴き方」など要望の強い講習会を開催するとしている。

質疑応答に入り、会場から「各区のボランティア活動にばらつきがあり、もっと活発にして欲しい」と熱心な意見もあり、採決の結果挙手多数で4、5号議案は承認された。

主要議案すべての審議が終わり、最後に今期をもって退任した赤司前理事長から「会員のみなさんのご協力により、NPO法人を軌道に乗せることが出来たこ

とを深く感謝しています」と、離任の挨拶のあと、小林新事務局長が閉会を宣言して総会を終了した。

続いて第2部の体験発表に移り、こうべ環境未来館管理責任者の田波久紀夫さん(園5)から「環境未来館の企画運営に携わって」、国際部会長の鐘築重治さん(国7)から「この1年をふりかえって」をテーマにそれぞれ貴重な体験談が発表された。

午後からは文化部会によるパフォーマンスに移り、奇術、銭太鼓、新舞踊、ハワイアン、コーラスなど約1時間半にわたって多彩な演技が披露された。最後にピンゴゲームがあって会場を沸かせた。

相	監	西	垂	須	長	北	兵	中	灘	東	い	文	環	国	福	広	財	事	事	理	副	理					
談	事	区	水	磨	田	区	庫	央	区	灘	き	化	境	際	社	報	務	務	務	事	理	事					
役	長	会	区	区	区	区	区	区	区	区	が	部	部	部	部	部	担	局	局	局	長	長	長				
赤	堀	黒	三	山	山	北	淡	竹	杉	福	白	大	垣	松	佐	芦	西	大	岡	東	高	小	中	郷	三	井	納
司	内	田	島	崎	口	田	路	野	田	岩	掛	尾	本	伯	原	阪	西	村	本	橋	林	沢	宅	上			
松		隆	和	雅	正	忠	昭	好		信	敏	一	義	義	耐	順	隆	健	敦	孝	将	保	肥	慶	利		
美	昭	宏	夫	夫	信	文	義	一	一	望	義	夫	士	彦	昭	子	三	史	朗	子	男	悟	夫	三	忠	堅	春
(生	(食	(国	(生	(生	(生	(食	(福	(生	(生	(国	(国	(生	(音	(生	(国	(福	(生	(生	(園	(福	(国	(生	(音	(福	(国	(福	(生
6、	6、	6、	8、	8、	6、	7、	5、	6、	5、	8、	7、	4、	6、	8、	6、	8、	8、	7、	6、	8、	9、	8、	9、	8、	8、	7、	
新)	新)	新)	新)	新)	再)	新)	新)	再)	再)	新)	新)	再)	再)	新)													

平成十七年度社会還元センターグループわ新役員名簿

新役員としての抱負

グループわ 充実発展に全力



理事長
納利春
(生・7期)

グループわの皆様5月17日の総会で、ご承認頂いた納(おさめ)でございます。赤司さんの理事長を引継ぐには私、いささかの力不足を感じております。

しかし、同時に皆様のご承認をいただいた優秀なスタッフの方々の後押しを得て、理事長をまっとう致します。

またグループわは会員の皆様のグループわです。皆様共々、グループわを更に充実発展させ、立派なものにしていきたく思っております。グループわも昨年、NPO(特定非営利活動法人)法人格を取得、こうべ環境未来館の運営も神戸市から受託し、また皆様共々の努力で、財政の危機も脱したと思われます。グループわもこれからといったところです。よろしくお願い致します。

知恵・経験を活す



副理事長
井上 堅
(福・8期)

シルバーカレッジで培った知識や技能を活かして「できるものが、できることを」をモットーに、社会還元の間を求めて、グループわの活動に加わって1年余り。その間、諸先輩方にただついていくだけの活動だったと反省しています。

国際化・高齢少子化・個別化の社会の中であって、わの活動は地域に目を向け、地域と連携し活動する組織として、その重要性がましています。

わの発展のために、会員の皆さんの豊かな知恵や経験、技能を十分に活かせる場を拓げるべく努力したいと思ひます。気負わず、気配りの出来る存在、縁の下の支えとして頑張りたく思ひています。

とにかく頑張ります



副理事長
三宅 慶志
(国・8期)

昨年に引き続いてグループわ本部事務局の職務に携わることとなりました。ことしは副理事長という要務を頂戴しました。

昨年はわの諸先輩方の足手纏いにならないように後に附いて行くのでよかったかと思ひますが、ことしはそういう訳にもいかず、果たして要務に応え得るか懸念しているところです。とにかく頑張ります。叱咤ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

役の重大さを実感



理事
郷肥三
(福・9期)

このたびの総会で新しく理事に承認されまして、役の重さを実感しつつあり

ます。先輩諸氏の方々が、平成9年7月22日グループ「わ」を設立されて、本年は8周年に入りました。平成19年7月には10周年を迎える時期に囚らずも世話をさせていただけることを喜んでいいます。小生はかねてより残りの人生のうちで、社会の何かの役に立ちたいと考えていました。残りの人生とはいえ心は青春のままです。

会員の皆様には、無理なお願いをすることがいろいろあるかと思ひますが、ご協力を得ながら役目を遂行したいと考えております。書面を借りましてよろしくお願ひします。

より充実した活動を



理事
中沢 保夫
(音・9期)

カレッジ在学中、地域活動の一環として近くの小学校で、算数の授業補助をはじめた。輝くような目で懸命に取り組む子どもたち、めきめきと計算力も付いて来ているようです。私は何ものにも代えがたい大きな喜びを感じました。

これがきっかけで、カレッジ事務局の方々、赤司前理事長の勤めで、5月からグループわ理事として「学習支援活動」を担当することになりました。900人を越える会員同士がお互いコミュニケーションに努め、より充実した活動を続けて行きたいものです。その中で心と心が通い合い、生き甲斐を感じ、喜びをわかち合えたら大変うれしいことだと思ひます。会員皆様方のご協力よろしくお願ひします。

2年目の重要な年



事務局長
小林 将悟
(生・8期)

グループわ事務局の業務を担当し、早や1年余りが過ぎました。特に今年度は「NPO法人」として重要な第2年目であることを銘記しなければなりません。大切なことはグループわ会員の皆さんの活動が意義深いものとなるよう、私達の視点を持ち行動することであると思ひます。ことしもご指導、ご協力を宜しくお願ひします。

何か役に立てれば



事務局次長
高橋 孝男
(国・9期)

KSCの卒業までまだ少しという頃、卒業後わでお手伝いして貰えまいかとの話に、できる日にできることがあればとお答えしていたところ、その担当を知らされびっくりしている次第です。しかも全くわのことを知らず、入会後ホームページや活動紹介を見たり、事務所で先輩に話を聞くにつけ多くの部員の方々が、多くの色々な活動をされていることに驚くと同時に、無知であったことを恥じ入るばかりです。また卒業と同時に、他にもボランティアを始めることになっていましたので、時間の制約もあり、活動の現場に赴く機会が少なく、皆様の苦勞を身を持って体験できないくらいがあるかと存じますが、事務局での役割を自覚し、少しでもお役に立つよう頑張り所存ですので何とぞ皆様(次頁に続く)

(前頁から続く)宜しくご指導の程お願い致します。

女性らしい仕事を



**事務局次長
東本 敦子**
(福・9期)

3年間、福祉の勉強をして参りましたが、ボランティアという言葉に耳にするだけで、なんら活動はしておりませんでした。その私が卒業後、ボランティア活動のお手伝いをするようになるとは、夢にも思っておりませんでした。しかし、これからどこでお世話になるかもしれません。少しでも若い内、そして女性にしかできないことを、皆さんに教えて頂きながらこの仕事を楽しくしていきたいと思っています。

財政基盤の確立を



**財務担当
大西 隆史**
(生・8期)

シルバーカレッジを卒業して1年が経ちますが、その間わの会員というだけで、活動らしいことをしていなかった私が、果たして役に立つのかという不安な心境です。とにかく前任財務担当の岡村理事を少しでも助け、微力ながらわの財政基盤の確立に努めています。今更いうまでもなく、「非営利...」の名前が示すとおり、グループわは利益を追求する団体ではありませんが、とはいえ何の活動をするにも常に費用を伴います。活動を支える基礎が財政力だと思っておりますので、与

こども家庭センター電話相談はじまる

理事 三宅 慶志

昨今家庭や社会の構造の変化の中で、こどもの福祉や人権の問題も質、量の面において変化を来しております。時には不幸にしてマスコミ種になることもあります。それだけに、関係ご家族は勿論のこと、地域社会も関心が深く、関係行政機関への相談が増加しています。中には待たなしの相談もあり、迅速かつ適切な対応が効果的な問題解決に至ることとなります。

こうした時代の要請を承けて、自治体では国の指導の下、1年365日、1日24時間些かの休みもなく、電話相談に応じる体制を設けることになりました。神戸市では、行政のスリム化がいわれる中、新体制の電話相談を現行職員体制でもこなせるよう、休・祭日や夜間の業務時間外の相談業務を外部機関に嘱託的な形で委託しようということとなりました。市の関係セクションで種々検討する過程で、グループわの活動実績からこの業務を委託するに適性があると判断して、グループわに受託できるかの打診がありました。

わ会員は、数多くあるNPO法人の中でも時間に融通の利く人が多い、しかも人生・社会経験豊かで親切的な電話対応ができる、まさにこの業務はわに相応しい活動ということで、受託する方向で、先号の「情報ぎやらりー」で従事者を募りました。30人弱の応募があり、受託の目途が立ち、業務を受託、7月1日から電話相談開始の運びと成りました。応募者には電話相談に必要な講義型の研修や実際に電話対応するなどの実務研修を受講して貰いました。

一応の体制は整いましたが、無理なく電話相談業務を維持できるよう、いまま少し従事者の体制を強化する必要がありますので、参加くださるようご協力の程お願い致します。こうしたことで、グループわのシニアパワーが社会に貢献できることを願っております。

えられた仕事を「公正・無私」の気持ちを持って励む所存ですので、会員皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

新風を吹き込みたい



**広報部長
西坂 順三**
(生・8期)

在学中、グループわについて、まったくの無関心であった自分が、役員末席を汚すことになろうとは夢にも思わなかった。就任後

わずか3ヶ月しか経っていないが、会員の皆さんがいろんな面で活躍されている姿を拝見して、ただ敬服するばかりです。

グループわという存在を、多くの市民の方々に知っていただくために「情報ぎやらりー」の使命は重要であります。そのためには会員の皆さんの声を反映して、紙面に新しい風を吹き込みたいと考えています。皆さん方の積極的な投稿をお願いします。

募集コーナー

ボランティアのお願い

施設 神港園(しあわせの村)
活動日 毎週火曜(第3除く)
時間 13:30~2時間
内容 入浴後の整髪など
対象 要介護高齢者(20名)
薄謝、エンコードがあり、その他の依頼があります。
連絡 淡路まで(592 8448)

曲が弾ける人、歌の好きな人を募集中

施設 明生園(しあわせの村)
活動日 第3金曜日(午前中)
内容 女性を対象に音楽遊びや軽いスポーツを指導
連絡 宮城まで(521 3391)

有馬温泉観光ガイド

内容 有馬温泉観光案内所前で日帰り温泉、ホテルの場所、名所の場所、駐車場の案内。2名で行う。
日時 土日祝(10時~16時)
謝礼 寸志、金泉入浴券
連絡 グループわ事務局まで (tel 743 8101)

探してまーす 車椅子の点検修理

神戸大学医学部付属病院では、院内のボランティア活動をコーディネートする一環として、車椅子の保守点検修理のボランティアを探しています。

作業内容は車椅子の不備箇所の点検確認、タイヤの空気圧調整とか虫ゴムの取替え、パンク修理など簡易な修理点検です。活動を始めるに当たっては、ボランティアコーディネーターの方で、車椅子供給業者からの修理点検のノウハウ説明を用意しています。ご関心のある方はグループわ事務局まで申出てください。



助成金交付情報

7月上旬までに決定した助成金事業を下記の通り報告します。

財団法人長寿社会開発センターより「高齢者による外国人と日本人の親子交流事業」の助成金として、¥1,671,000. が決まりました。

外国人の親子と日本人の親子を対象に、昔あそび塾、自然あそび塾、日本料理教室などです。本年度はさらに新しいもの(外国料理教室等)によるふれあい交流によって、お互いの文化等を理解しあうイベントを開催する予定です。

公益信託コベルコ自然環境保全基金より「里山の保全と里山体験塾開催による普及啓発事業」に対し、¥160,000. が決定しました。

しあわせの村の里山を整備、親子対象の里山体験塾を開催し、一般市民の学習の場を提供します。

財団法人ひょうご環境創造協会より「ケナフ栽培とその効果的な利用」に対し、¥100,000. が決定しました。

ケナフ栽培、ケナフ紙すき体験、ケナフ炭づくりを通して、ケナフによる地球温暖化防止や環境教育の普及の支援を行います。

財団法人兵庫県国際交流協会より「外国人留学生または在住外国人との交流事業」の助成金について、¥100,000. が決定しました。

ニュースポーツ交流、日本料理教室等を通して、外国人と日本人との交流、さらには世界の人たちとの交流を計ります。



七夕笹飾りづくりの指導を受ける親子連れ

あそびなどを、次世代にしっかり伝承していくことの大切さを考えさせられました。なおフルーツ・フラワーパークでは、グループわとの協働事業として次のイベントの開催を予定しています。

- 大沢里山探検隊
(7月29、30日)
- グランドゴルフ大会
(10月15日)
- 昔遊びフェスティバル
(10月30日)
- 野鳥観察会と大沢の秋ウォーキング
(11月27日)

公開授業のお知らせ

神戸市シルバーカレッジでは、本年度第1回公開授業として「環境保全と市民活動」をテーマに開きます。

この公開授業は今日、重要といわれている環境問題の課題を拾い上げ、市民一人ひとりが環境保全にどう関わっていいのかを考える講座です。

それぞれの領域で環境保全活動を実行されている方々から、体験談を通して市民活動の意義や課題などをお話いただきます。

生活環境コース3学年の正規の授業ですが、卒業生の方々にも公開しています。皆さんふるってご参加ください。

なお第1回公開授業は7月15日に開催、NPO 法人環境市民代表、すぎ本育生氏「日本のグリーンコンシ

ューマー活動」

なお第2回以降の公開授業は次の通り。

第2回 9月26日(月)
10時30分~12時

「人と野生動物が共存できる社会を目指して~いま私たちが出来ることは何か~」

人と自然の博物館
主任研究員 横山 真弓氏

第3回 11月25日(金)
10時30分~12時

「市民がすすめる環境活動」

神戸市環境局地球環境課
環境教育係長 橋本 郁夫氏

第4回 11月25日(金)
13時~14時30分

「学校現場における環境教育」

神戸市立好徳小学校
教頭 青木 公直氏

盛況だった七夕笹飾りづくり

福8 文 井上 堅

7月3日(日)フルーツ・フラワーパークで、来園者の自由参加による七夕笹飾りづくりが行われました。当日はあいにく雨降りでしたが、多くの親子連れ、障害者のグループ、成人の団体客が会場を訪れていました。グループわからは、折り紙グループ8名、あかりの会3名、本部3名の14名が参加協力しました。

折り紙グループの人たちによる紙細工は、色紙や広告紙がまるで魔法をかけられたように変身して

いくさまに、感嘆の声が上がっていました。また、熱心に折り紙の指導を受けている人たちも多く見受けられました。用意した笹は100本余りもありましたが、さらに数十本追加する大盛況でした。飾りや短冊をつけた笹を嬉しそうに持ち帰る子どもの姿が印象的でした。あかりの会のメンバーによる、七夕にまつわる紙芝居に子どもたちはもちろん、大人も引き込まれて見入っていました。

日本の良き伝統文化・昔

国際部会

外国人留学生とのスポーツ交流会

国8-国 佐伯 義昭



グループわの国際部会が平成17年度の事業の一環として、6月4日(土)午前10時、しあわせの村のローンボウルス場で、外国人留学生とスポーツ交流会を開いた。(財)兵庫県国際交流協会から市民レベルの国際交流活動の育成・奨励のための助成金が出ており、国際部会がその呼びかけに応じたものである。

競技種目はローンボウルスというニュースポーツを行った。留学生の参加は他の行事と重なったために少なく、スペイン、モンゴル、ブラジルの学生3名。それにグループわの生涯スポーツクラブ員10名、国際部会員12名、シルバーカレッジの在校生7名、計32名が8レーンで競った。

留学生たちが話す日本語も滑らかで、彼等にとって初めてのスポーツであったが、最初のデモンストレーションの説明も良く理解していた。

競技が始まると「オー」「キャッ」「ノー」とか、日本語で「ダメ」といって喜び、残念さを動作や大声で表し楽しんでた。青々とした芝生の上でみんな心地よい汗をかいた。

先日、スペインの留学生からお礼のメールがきた。秋ごろに開催予定の2回目の競技に友達の留学生を連れて参加するとあった。

今回参加した留学生がスポーツを通して他国の若者と交流できたことは素晴らしい体験であったことだろうと思う。◆

須磨の歴史を勉強しています

園4-環 川島 清一

平成12年にカレッジを卒業して5年、卒業当初はグループわの一員としてカレッジで学んだ園芸の経験を生かしグループで高齢者家庭の庭木の剪定を行っていました。

70歳を過ぎると樹木の剪定などの肉体労働がだんだんと厳しくなり、15年末にグループを解散しました。その後有志が集まって、歴史の研究を始めました。グループわの会員、カレッジの学生、一般市民など25名で活動を始めてから2年あまりになります。

いろいろと須磨の歴史を勉強しているうちに、NHKの大河ドラマ「義経」の放映が決まり、それにあわせて観光客も増えてきました。我々も勉強の成果を試す折角の時

と須磨を訪れる観光客のガイドを行うことにしました。

鉢伏山から青く光る海を見下ろし、義経主従が辿ったであろう山道を皆さんと共に歩く。そして滅びの美学とも言える平家の歴史をガイドする。また、須磨寺における敦盛の青葉の笛を披露する。記憶力の衰えてきた我々にはなかなか難しいことですが、熱心に聴いて下さる皆様の姿に最近ではますます燃えてきております。グループわの皆さん、一緒に歴史の勉強をし、全国の皆様に須磨を案内しませんか。ボランティアとしてなかなか面白い仕事ですよ。

連絡先 〒654-0061

須磨区高尾台2丁目4-3

TEL 731-2337

季節の草花 ① 生8-文 久保 知彦

夏の花 アサガオ

「朝顔につるべ取られてもらい水」(加賀の千代女)など歌や句に詠まれているアサガオは、季語では秋の花で、熱帯アジア原産のヒルガオ科の植物である。

日本には奈良時代に薬草として、中国から伝来した。江戸時代後期には観賞植物として急速に広まり、多くの改良品種が作られた。

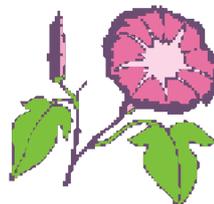
現在では小学校の教材にも多く使われており、夏休み前ともなると、大事そうに鉢を抱えて家に向かう小学生の姿が見られる。

このアサガオも万葉集には「朝顔は 朝露負いて咲くといえど 夕影にこそ咲きまさりけれ」とあるが、実は現在のキキョウのことを

アサガオと呼んでいたようだ。

アサガオの仲間には、昼に咲くヒルガオ、サツマイモなどがある。かんぴょうの材料のコウガオはウリ科の植物で少し違う。

ところで、アサガオのつるは左巻きだが、南半球ではどうなるだろう。台風の渦巻きの方が逆になるように、アサガオのつるも逆になるのだろうか。実際に見た人はいないのかなー。



こうべ環境未来館開館1周年を迎えて

環境未来館 責任者 田波 久紀夫

神戸市がゴミ問題から地球温暖化防止対策までを分かりやすく楽しみながら学習できる施設として建設した「こうべ環境未来館」が開館1周年を迎えました。

この施設の管理・運営を神戸市から委託を受けたNPO 法人グループわとしては、初めての有償大型事業であり、ゴミ問題や資源リサイクル・地球温暖化問題など環境問題全般について見学者に説明案内するという初めて体験する仕事でもありました。極端に言えば、グループわがこれから成長・発展して行けるかどうかの命運が掛かっている事業でもありました。

管理・運営や見学者案内に失敗すれば、今後このような事業に進出する事は困難になるかも知れません。直接担当する我々20名にとってはかなりのプレッシャーを感じながら、市環境局から2週間の研修を受けました。

しかし、開館までには十分な準備期間も無いままのスタートでした。すべてが初めて体験する仕事でありながら、相談する人もなく、即断即決しなければならない問題が次々と発生し、最初から試行錯誤と緊張の連続でした。また久しぶりのフルタイムの勤務でしたので、体力的にも厳しいものがありました。

幸い関係者の皆さんの知恵と全面的な協力のお陰で、来館された方々に迷惑を掛けるような大きなトラブルや事故もなく、無事に1年を経過することが出来

ました事を全員が本当にうれしく思っています。その結果、神戸市環境局からも一応の評価を頂いたものと思っており、17年度も引き続き受託することが出来ました。

この一年間に環境未来館を訪れた見学者は、予想を超えた16,000名以上もあり、コーディネーター（案内説明者）の方々も忙しい日は1日に3回（1回約2時間）案内説明する事もありました。見学者からは、ペットボトル、缶、ビンのリサイクル問題、ごみの6分別問題、地球温暖化防止対策の問題等に質問が集中しました。特にリユースとしての再生品家具・自転車の展示と提供には大変多くの方が興味を示され、申込をされました。

一方、次代のエネルギーとしての太陽光発電設備、風力発電設備等にも多くの方々が関心を示されました。最新鋭設備の資源リサイクルセンターでも異物除去作業には多くの人達が手動で行なっていることに大変驚いていました。

いかに種々の異物を混入させたまま、リサイクル品を出している人が多いかを物語っています。一人ひとりがもう少し正確に分別して、資源ゴミを出して欲しいと思います。

環境学習の一環として、市内の小学校生の見学も多く、すでに26校から約1,600名の生徒達が来館しています。こども達はやはり資源リサイクルセンターの見学でクレーン等の



ペットボトルで出来たTシャツに驚く小学生たち

大型可動設備に興味が集まって、見学途中で立止まり、移動しなくなる事もしばしばありました。県内外の役所関係者や議員の視察、県外の各種団体の見学、ホームページを見て、県外からの問合せも多く、この施設に対する関心はかなり高いと思いました。

毎月1~2回企画・実施している環境学習講座（エコスクール）にも多くの方々が参加して頂き、特に親子で参加する講座（例えば、ケナフから学ぼう地球温暖化や、野草を探して春を味わおう等）は盛況で、わ環境部会の各グループの皆さんのご協力を得て幅広い環境問題について親子が共に学び、共に楽しむふれあいの場になっています。

その他、再生品家具・自転車の展示と提供の仕事や従来市の職員が担当していた「こどもエコクラブ」事

務局としての仕事など予想以上に幅広い分野業務をしなければならず、気力・体力をフル回転させて対応しています。

1年が経過して、全体像が掴め、運営面では比較的安定してきましたが、気を緩めずに、日々新たな気持ちで仕事をしてゆくことが大事だと思っています。

2年目も更に充実した案内が出来て「こうべ環境未来館」イコール、グループわという評価になるよう、全員が頑張るつもりです。まだ来館されていない方は、ぜひ一度お出で下さい。必ず役に立つと思います。

最後に、今後もグループわの皆様方にいろいろな面でのご協力を頂き、より良い運営をしてゆきたいと願っていますので、よろしくお願い致します。

世界一周の旅を終えて

金光時代(国・6)

去る2月22日、小雪の舞う神戸港から世界一周の旅に出た。NGOのピースポート(3万1500t)で、建造50年、国際条約でやがて廃船となる老朽蒸気船。乗客940名、乗組員450名の人たちと運命を共にした。3ヵ月半という長旅は不安だった。参加者は1人参加の人が7割、いろんなカップルの人たちも多く、16歳の少年から92歳の老人まで。なかにはガンの告知で余命少ないという人も居られた。

この船は豪華客船と違い、各寄港地で中古マシン、自転車、衣類、文房具、おもちゃ等を贈り、地元の人たちと交流しながらの観光であった。船の中の生活は退屈することはない。乗客同士で企画し、お互いに楽しむ。いろんな芸達者がいて参加しなげりや損。社交ダンス、コーラス、手話、英会話などの催しがあり、適当に習得すると発表会がある

またヒナ祭り、赤道直下の大運動会、のど自慢、囲碁大会、仮装行列等。午前と午後、毎日映画がある。室内では終日ビデオ上映、居酒屋、美容室、カラオ

ケ、コインランドリーと年相応に何でもある。陸が恋しくなると、寄港地で下船。それぞれのツアーに分かれて気分転換だ。

特に印象深かったのはイースター島。溶岩の島で岸壁がないため、5キロほど沖に船を泊め、9人乗りのテンダーボートで700名を運ぶ。本船から梯子を降ろし、木の葉のように上下する船に乗り移る。救命胴衣をつけ、赤銅色の船頭が手を差しのべてくれて乗り移るのだが、私は足がすくんでなかなか前に足が出ない。9名が揃うと波しぶきを上げて島に向かう。

入江は陸地だから下船は楽だ。まず大きなモアイ像が並んで迎えてくれた。大きさも表情もみな違う。10人乗りのバスで草原を走る。野生の牛や馬がのどかに草を食べている。島全体で390体ものモアイがある。昔、部族の争いで倒されたもの、またチリ地震のとき倒れたもの等。1992年、日本の大手クレーン会社が3年かけて15体のモアイを立て直すことに成功した。帰りは陽が暮れて懐中電灯の明かりで本船に戻る。夜のレストランは島



イースター島のモアイ像

での話題で賑やかだった。

次にリビア。この国は一般観光が近年まで許可されなかったため「ローマを凌ぐ遺跡」といわれる世界遺産が見事な保存状態で残されていた。まず軽飛行機で砂漠のオアシス、ガダーミスへ向かう。約30分眼下に広大なサハラ砂漠を見ながら草原に着陸した。

バスで白い城壁と椰子で囲まれた場所から地下に降りる。迷路のように入り組んだ道と個室が続き、外の暑さを忘れさせる涼しさ。その一室のレストランで昼食をとる。アラバスク模様の敷物に、一面鮮やかな塗装の仏画や壁画に囲まれてリビア料理を頂く。午後から果てしなく続く砂漠の一角にラクダが10頭。真黒の布で全身を覆い、目だけを出した売り子が声を掛けてくる。ラクダは5分くらい乗って1ドル。私は腰を痛めていたので乗るのはあき

らめた。

続いてエリトリア。隣国エチオピアとの30年にわたる独立戦争を経て、1993年に独立した若い国。その傷跡はまだまだ深く、港町マッサワは観光スポットとは無縁で何にもない。ピースポートはこの国の若者にピースボールを贈り続けて10回目。ここでは「汽車乗車体験」コース。戦争中、線路の鉄は武器に、枕木は燃料に、機関士は戦場に狩り出され、長年運行中止されていた。復興整備が進み、その汽車で大地を駆け抜け、車窓からの風景は草原と小屋のような民家。家畜を追う瘦せた少年、所々に難民キャンプの集落、年中雨も降らず食糧不足が続き、よくぞ生きていることと思う。紅海に面したこの国は、灼熱の太陽とミネラルたっぷりの荒塩は最高。(次頁に続く)



世界1周のピースポートの航路(円内は筆者)



(前頁から続く) 重いのに5*も買い求めた。
 ペルーは「日系社会訪問」のコース。19世紀末、豊かな未来を夢見て多くの移民が渡り、厳しい労働に耐え、祖国に帰ることもなく大地に骨を埋めた人も多いと聞く。リマの日系人グループの案内で、バス1台でどこまでも続く灰色の砂漠。ポタ山のような重なり合う山々、麓に椰子で編んだ小屋のような民家。その奥にひっそりと建つ移民1世の墓、千羽鶴と花・線香を供えて泣いた。

なもてなしを受け感動した。翌日ガビさんの山畑へバナナ、タロイモ、カボチャの収穫の手伝いをする。帰りには土産まで頂いて村人との別れを惜しんだ。
 スエズ運河、パナマ運河のスケールに驚き、ハワイでは米軍基地やアリゾナ記念館を見学した。波が荒れる日、快晴の時の海の色、目の下を鯨が通り過ぎたこと、多くの貴重な体験をして、アツという間の105日だった。六甲山が見えたときは、思わず感泣してしまった。



一泊した家のパパさんと(タヒチ島にて)

次にタヒチ島。自給自足で平和な暮らしをしていた島を19世紀末に、フランスに支配下に置かれ、古くからの伝統や文化農業、漁業も取り上げられた。その上200回にも及ぶ原爆実験で、平和な島の生活が失われそうになったので、島民のマオヒ族は主権回復を目指して「いま立ち上がる時」と全世界に抗議行動を展開しています。

その先住民の村へ、バス1台40名で訪問し交流しました。聖なる焚き火を囲みながら、島民のガビさんの熱い思いを通訳を通して聞き、夜は民族舞踊を鑑賞、お返しに炭坑節を披露しました。その夜は民家に3名ずつ分宿し、私は2人のこどものいる家で、大変

ミュージック・ベル
演奏で全国3位に
 わ文化部長の垣尾一士氏が指導している「デイサービス塩北」が16年度全国ミュージックベル合奏コンテストの高齢者施設の部で見事、銅賞を受賞しました。
 塩北(塩屋北の略)チームは、ミュージックベルを中心にピアノ、ギター、トーンチャイムで演奏練習をしています。毎年、舞子ピラで開かれる全国大会に参加しています。会員たちは音楽はもちろん踊り、健康問題にも取り組んでいます。今回の受賞曲はアロハオエで、次回は金賞を狙いたいと張り切っています。

グループ紹介

クッキーの会

森岡典子



阪神大震災のあと、1期生の方々がしあわせの村内にあった復興住宅の被災者に、自作のクッキーを添えて喫茶サービスを続けておられた。このようなボランティアもあると感動し、平成8年秋に私たちの「クッキーの会」を創設しました。

以後、毎月1回欠かさず復興住宅、地域の高齢者、心身障害者作業所の皆さんにクッキーを贈り続けて、大変喜んで頂いています。回を重ねるごとに心温まる交流が芽生える等が、9年近くも続けてこられた活力源になっているように思います。

8月下旬には、作業所の皆さんをお招きして、会員一同とともにクッキー焼きの楽しい1日を予定しております。

映画「THWAY 血の絆」
 完成試写会 in KOBE
 とき 8月14日(日)
 13:00~16:00
 ところ 長田区ビブレホール
 入場料 大人 2,000円、
 学生 1,500円

概要 ミャンマーの女流作家ジャーネージョ・ママレのベストセラーを、14年の歳月をかけて映画化した。太平洋戦争中、ビルマ戦役で何が起きたかを、日本・ミャンマー合作の超大作映画である。

ミャンマーの美しい自然と風土、人々の優しさを背景に、人類や文化を越えた「人間愛」の尊さを訴えている。

主催 神戸ミャンマー皆好会

一寸奉仕
 (大道芸サークル)

「幸せ」って何でしょう。「幸せ」は私達のすぐ傍にたくさんあります。それは考え方とか、思い遣りの心だと思います。そんな小さな「幸せ」を大道芸に託して人々との触れ合いが、私達自身の人・物を思う心をつくります。また芸を磨くことが出来ると思い、活動をしていきたいと思っています。

「ありがとう」の言葉といっしょに。 **増金 スミ子**

(967 4038)



西区会

幼稚園児の野菜づくりの手助け

神出幼稚園では野菜の栽培から収穫までの実践を行うことにより園児の正しい食に関する知識を身につけ健康な心と体を育てる事を目的とした教育を行っています。その一環で去る5月13日に園児がそれぞれの鉢(8号)に年少組はミニトマト、年長組はキュウリを植えました。園芸7期のわの会員が、手

園3 - 西 松岡 泰彦

取り足取りしながら指導に当たりました。

園児たちは、わいわいがやがや言いながらも話を聞きながら楽しそうに植えました。今後も肥料や水やりも自分たちでしながら育てていきます。

夏には美味しいトマトやキュウリがたくさん穫れることでしょう。



園児たちに野菜づくりを教える わ の 会員

コーラス、社交ダンスなどで慰問

生8 - 西 三島 隆夫

6月末現在、西区のわの構成員は105名で、うち2名は一般の方です。16年度に比べると24名の増員となりました。皆さんの力をいただき活動を活発にしていきたいと願っています。現在、定期的に活動しているのはエルダービレッジの

グループホームでの喫茶コーナーの手伝い、話し相手(月4回)や社交ダンス(月1回)。(グループホーム花と風では社交ダンス(月1回)虹の里では花の手入れ(月1~2回)コーロむつみ(ボランティアコーラス)による老人保健施設の慰問、虹



コーロむつみによるボランティアコーラス

東灘区会

ふれあい料理教室始めました

音5 - 東 藤井 潤子



お料理教室で、緊張気味の男性会員

「食べたい物を自分で作る」という男性が増えてきています。東灘区会では”男の料理”ということで、第1回目を6月21日午前9時~12時に開きました。

参加者は21名(男性13名、女性8名)で、5テーブルに分かれて「ワイワイガヤガヤ」「乱切りはどないすんねん?」等々、生まれて初めて握る包丁に、緊張感が溢れ

ていました。メニューは定番の肉じゃが。おふくろの味を思い出しながら、自分たちで作ったお料理を楽しく美味しく頂きました。各テーブルに1名づつ食文OBの方が優しく丁寧に指導して下さいました。感謝、感謝です。将来の目標は地域の方と一緒に...です。行政も期待しているそうです。次回は9月20日の予定です。

ありがとう

ございました

「不用品はありませんか」7月30日(土)しあわせの村の村まつり模擬店に、グループわとして「バザーの店」に参加します。出店に備えて、会員の皆さん方に不用品のご寄付をお願いしましたところ、なんと400点ほどの品々をご持参いただきました。

予想をはるかに越える品々で、事務局一同、感謝しています。本当にありがとうございました。皆さんのご好意を無にしないよう頑張らせていただきます。

なおこの売り上げはグループわの活動資金に役立たせていただきます。

わ 事務局一同

の里では花の手入れ、などしこの里での園芸支援、木工作业など幅広く活動をしています。この度、さらに次の2件のボランティアの要請が来ています。会員の皆さんの絶大な協力をお願いします。花のボランティア 介護老人保健施設「風と緑」での花の手入れ 作業内容はプランター30鉢、観葉植物20鉢、花壇3箇所等の散水など 2人ペアで、月2~3回、交通費、昼食あり。西区民センター前の花の手入れ 作業内容はプランター20個、観葉植物10鉢等 いずれも2人ペアで、月1回程度。

活動日は相談に応じます。

「ゴミって何だろう？」 親子教室

生3-環 中島 洋吉

こうべ環境未来館主催の環境学習講座 平成17年度第3回の『ゴミってなんだろう？ 皆で考えてみよう』が、7月18日(月)に神戸市環境局西事業所の協力、親子57名(子ども27名大人30名)の参加で実施されました。

私たちの家からは、毎日たくさんのごみが出されています。これらのゴミは、誰が集めて、どうやって処理されているのでしょうか？そして最後はどうなるのでしょうか？ゴミを減らし、資源を大切にするためには何ができるのかなど、環境にやさしい暮らしについて考えてもらう企画でした。



パッカー車の構造を見学する親子たち

当日は挨拶やスケジュール説明の後、屋外の駐車場で環境局西事業所職員の方から、パッカー車の構造やパッカー車に積みことができるごみの量、参加した子どもたちによるごみ積み込みの実演、危険物(油、農薬など)の飛散実演などを見学後、研修室に移動してごみの出し方、減量の仕方、ひまわり収集、ひまわり100番の説明、を聞いたり、ワケトンビデオを見たりしました。

午後からは、子ども組と大人組に分かれて、資源リサイクル工場の見学と、ごみ分別ゲームをした後、参加者全員に渡された質問の答えを、未来館内に展示してあるパネルから探します「こうべ環境未来館探検ゲーム」に挑戦してもらい、答え合わせとふりかえりシート記入で環境学習講座をおえました。

最後のまとめで、子どもたちに「ごみてなんだっけ」と質問したら、「ごみは人間の出すもの」「ぐちゃぐちゃにして出すとごみ、分別して出すと資源」という答が返ってきて、今日の疲れがいっぺんに吹き飛んだ思い

がしました。ふりかえりシートに書かれた一部を紹介すると「子どもの感想」
 ・ ごみが「資源」に変わることが分りました。ごみを分別することは、すごいなと思いました。パッカー車にごみを初めて入れたことが楽しかった。(9才男児)
 ・ ごみなんて捨てたら終わりだと思っていたけど、捨てた後も、きちんと処理してくれる人いたことを知りました。パッカー車の仕



ワケトンの縫いぐるみに集まった子どもたち

組みが良く分りました。最後に館内の探検が楽しかった。(11歳女児)

・ おもちゃの縫いぐるみなどをフリーマーケットなどに出して、ものを大切にしようと思いました。資源リサイクルセンターを見学し、探検をしたことが楽しかった。(10才女児)

・ ガスボンベのガスが入ったままだと、爆発してしまうなんて知りませんでした。リサイクル、リデュース、リユースなんて言葉があるなんて知らなかったよ。工場見学をしたことが楽しかった。(8才男児)

・ 3Rのことがとても分りました。バイオマス発電のことが始めて分って良かったです。ごみはうまく分別したら資源になることが良く分りました。環境未来館の探検がとても勉強になりました。楽しかった。(11歳男児)

「大人の感想」

・ ごみの分別がはっきり分りました。省エネの取り組みに付いて具体的に何かからすれば良いか参考になった。家族みんなで取り組んでいけそうなのでこれからも楽しみながらごみを減らしリユース・リサイクルしてゆきます。(39才女性)

・ このようなセンターを作らなければならないことを非常に恥ずかしいと思う(分別すればすむこと)。家の周りでも分別に全く意識のない人が多くそれは若い人に限らない。ある程度収支に余裕のある自治体であるからできること。とにかく分別を厳しくすべきとは思わないが、他の場所でもやっている様にごみ袋を有料として、その袋でしか出さない等の荒治療がいるのでは？センター内の見学コース、展示物は見やすく内容も充実していた良かったと思います。(34歳男性)

・ 今まで何げなく出していたごみに付いて、改めて考えさせられました。捨てることごみにすることは簡単ですが、そのごみを如何にして減らしていくか、自分の中でこれから生活していく中で工夫したいと思いました。実物のパッカー車を見たり、説明を受けたり楽しかったです。普段、目にすることの多いパッカー車に親しみを持つと同時にごみ出しのルールを守ろうと思いました(37才女性)
 など貴重な感想がたくさん寄せられ、企画のねらいがほぼ達成出来たのではないかと思います。

編集後記

親子であつまれ 自然あそび塾(8)

昆虫をさがして 標本をつくろう

しあわせの村には どんな昆虫がいるかな？

いろんな昆虫をさがしてみよう。

標本づくりにも挑戦しよう。

きっと、すばらしい宝物ができるよ。

指導：大谷 剛(人と自然の博物館)

- ・日時：平成17年8月21日(日) 午前10時～午後3時
 - ・場所：しあわせの村 あおぞら (神戸市北区しあわせの村)
 - ・対象：小学生と保護者
 - ・費用：無料
 - ・定員：25組 (先着順)
 - ・申し込み方法：ハガキかFAXで。
参加者全員の氏名、年齢、住所、電話番号を記入の上お申し込みください。
- 宛先 651-1102 神戸市北区しあわせの村 神戸市シルバーカレッジ内
グループわ「自然あそび塾」係
FAX 078-743-3830

主催 NPO法人社会還元センター グループわ[〜]
協力 兵庫県立人と自然の博物館
後援 財団法人 長寿社会開発センター
お問合せ 電話 078-743-8101



皆さん情報ぎやらりーの紙面が変わったのをお気づきでしょうか。前編集長、朝日さんが本部に具申して広報誌印刷用にレーザープリンターを購入してもらったのです。この情ぎやら第31号がそれを使った記念すべき第1号です。

紙は相変わらず再生紙を使っていますが、印刷がきれいになり、見た目も数段よくなっています。とくに写真がきれいになったと思います。

私にとっても記念すべき第1号でもあります。ものを書くのはそんなに抵抗はなかったのですが、なにせ編集から紙面づくり、校正と、この1ヶ月間はパソコンを触らぬ日がないほどでした。

パソコンの腕前は、シルバーカレッジに入って教えて頂いただけで、この難しいパソコン紙面づくりには参りました。朝日さんにはご迷惑の掛けっぱなしで、何とか12面を仕上げましたが、投稿いただいた皆さんはじめ、役員の方々には大変お世話になりました。次号からはもう少しましな紙面が出来るかと思いますが、皆さんの応援をよろしくお願いします。

(JN)

～聞いてみよう～



「中国で日本語を教える」

- 甘かった最初の考え -

暑い夏、涼しいお部屋で、お茶を飲みながら、普通の主婦が単身、中国の広東省に行って、日本語を教える奮闘談を聞いてみませんか？

日時 平成17年8月23日(火) 10時30分～12時
場所 しあわせの村内 神戸市シルバーカレッジ
講師 水谷 くり子さん
企画 グループわ 事務局有志

